

うらばなし7

なかま

# 「愛川レッドカーペットの おかげで成長できたんです。」

「申し訳ありません。青春がしたかったの(笑)」

「『ありふれた話。』が行くと思っただんです。でも、ダークホースがいた(笑)」

土井 武田と松下は、愛川レッドカーペットのおかげで成長できたんです。2人とも、ストーリー性のある作品を作ったのは、今回が初めてでした。OR→Pが立ち上がってから、企画を上げたり脚本を作ったりしてきたのは僕と石山さんで、なかなか2人から企画が上がらなかったんです。2人からも企画を上げさせていこうという流れの中で、作品も作ってみよう。だからその分、作品への愛情も強かった。松下は、ファイナリストの発表、どこで聞いてたんだっけ？

松下 ハワイ(笑)

土井 ハワイで発表の動画を見て、絶望したんでしょ？

松下 もうすごかったです。

CD 僕は、「ありふれた話。」が好きでした。

松下 嬉しいですよ！

CD ちょっとPVぼかったから、コピーが欲しいって感じになったけど。仙台下で3人のシーンが短めなカットで続くところ、あれはすごく素敵だと思いました。

松下 あれ、めちゃめちゃ良いですよ!!

石山 一番町の景色が上手く取れたというか。仙台下はいいシーンだったよなー。僕キャンプ好きなんで、あそこキャンプ行きたいですね。すごくいい場所。

土井 落ちた理由も、ストーリーとしてのものじゃなくて、ミュージックビデオみたいなのがダメだったのかなと。

石山 新宿のシーンは企業名も映りこんでたし(笑)

CD 強いて言うと、メッセージが伝わりにくい所があったかもしれない。

石山 最後花火シーンが終わって、彼女が何かを言ってるんですよ。

土井 あれは何をしゃべっていたの？

松下 「ありがとう」って言ってます。

石山 アングルの、口元だけだし分かりにくい。黒バックで消えて「ありがとう」で締めてもよかった。でも松下が求めている作品とは違うよね？

松下 うん(笑)

土井 これですよ(笑)こだわりが強いから。

石山 僕が提案したものは軒並み却下されるという(笑)新宿のシーンの仕上がりだけで、5回くらいリマストしたかな。

土井 撮影自体が、終電過ぎてからで。

石山 人のいない新宿で撮りたいって。僕に帰るなって言うんだなって(笑)

松下 申し訳ありません。青春がしたかったの(笑)

土井 「ありふれた話。」も行くと思っただんです。

でも、ダークホースがいた(笑)

武田 発表の後、選考の基準ってどこなんだろうと。みんなで話していました。



CD 細かいところはお伝えできませんが、作品のレベルが高くて、僕らも本当に楽しかった。OR→Pの作品は、今話を聞いて分かる部分もあるけど、絵がすごく綺麗でした。石山さんの「愛を描く」の八音橋のシーンなんて、落ち着いたカメラ割で、すごく良かった。玉寄さんの「不思議な話も」。

石山 玉寄さんの作品を撮った時は…

土井 とんでもなく雨が降っていた時です。

石山 色々スランを変えて撮ったんですよ、彼。

シュ ほとんど外でのロケでしたもんね。

石山 雨の中、なんとも往復して。

土井 靴が泥だらけになりました。

シュ 僕、あの日に限って白い靴を履いてたんですよ。

石山 カメラも大変だったんじゃない。

石山 カメラが最優先で。守りながら撮りました。本当はあの日で撮り終える予定でしたけど、もう、後日にこぼそうと。松下の作品だけをこぼしました。

武田 「なまでら」は。午前中にちょっとばらついたぐらいで終わって。

じゃ次行こうと。けっこう巻いた記憶があります。

石山 企画を持ち込んだ玉寄にしわ寄せが及ぶというね。

CD OR→Pとして4作品を応募いただきましたが、受賞は予想していましたか？

武田 土井さんはもう、宣言しています。

土井 撮影中に宣言していました。「にちじょう」が獲ると。

石山 まあ、全員同じことを言っていましたけど(笑)

土井 全員が全員グランプリとるみたいな。撮影した仲間でもあり、ライバルでもありみたいな感じでした。

CD いい関係ですね。

にちじょう 録音

武田 良輔(たけだ・りょうすけ)

1990年生まれの28歳。福島県出身。志事務所所属。専門学校卒業後、スーツアクターから俳優活動を始め、映画やテレビドラマ・CM等出演多数。

第2回愛川レッドカーペットでは、ショートムービー初監督作品「なまでら」がファイナリスト作品に選出される。

特技は殺陣・格闘・アクション。趣味はゲームやアニメなど、サスカル系が好き。

